

2006年3月15日(水)

報道関係各位

株式会社 SOBA プロジェクト

株式会社 SOBA プロジェクトが
P2P 形式によるテレビ会議システム・ビデオチャットシステム
『SOBA CITY』を3月15日(水)より無料で提供開始

URL: <http://city.soba-project.com/>

京都の産官学発ベンチャー企業、株式会社 SOBA プロジェクト(本社:京都市下京区、代表取締役社長:緒方 敏博、読み方:ソーバ、以下(株)SOBA プロジェクト)は、テレビ会議システム・ビデオチャットシステム『SOBA CITY』を3月15日(水)より無料で提供いたします。

『SOBA CITY』を利用した提供サービスを企業・個人向けに**無料提供**を開始いたします。これにより、様々なビジネスシーンやご家族・ご友人同士の意思伝達で、柔軟且つ迅速な情報共有・情報交換ができ、活発なコミュニケーションの場を提供いたします。

『SOBA CITY』の特徴

インターネット環境さえあれば、インターネット上に参加者が共有空間を作り、遠隔地にいるコミュニケーションの相手同士がまるで「傍(そば)」にいるかのように**ピア・ツー・ピア(P2P)形式でビジュアル・コミュニケーション**が実現できるテレビ会議システム・ビデオチャットシステムです。ビジネスシーンやご家族・ご友人同士の意思伝達で、柔軟且つ迅速な情報共有・情報交換ができ、活発なコミュニケーションの場を提供いたします。

「ピア・ツー・ピア(P2P)形式とは、定まったクライアント、サーバをもたず、ネットワーク上のパソコン同士が互いに直接クライアントとしてもサーバとしても役割を果たし、通信する形式です。

テレビ会議システムに必要な機能すべてが**無料!**

企業内や仕事の打ち合わせで必要とされるテレビ会議システムの基本機能がすべてそろって、**利用料が無料**。参加者の顔が見えて声が聞こえる**ビデオ・文字チャット**や、内容に応じて柔軟に活用できる**ホワイトボード**、単なるパソコンのデスクトップ画面共有とは異なる**Windows® アプリケーション共有**など幅広くサービスを提供いたします。

ピア・ツー・ピア (P2P) 形式による共有空間を実現 [特許出願中]

各ユーザのパソコン間の通信にピア・ツー・ピア (P2P) 形式を利用しているため、サーバークライアント型によく見られる、共有空間への参加ユーザ数の制限がないため、一人がいくつもの共有空間を作ることでもでき、また、一人がいくつもの共有空間に参加することも可能です。

Windows®上すべてのアプリケーションを共有できる

ビジネスシーンで多く利用される、Windows®上で動作するすべてのアプリケーションを共有空間で共有することができます。共有した Windows®アプリケーションを参加中のメンバー全員がリアルタイムで見ながら、同時に各参加メンバーの画面上で閲覧することができ、遠隔操作することも可能です。

仕事上の打ち合わせなどで利用するソフトウェアを共有し、参加メンバーにプレゼンテーションする際、そのデータに他の参加メンバーから画面に直接書き込みしたデータも即時にすべてのメンバーに反映されます。

初心者にも安心な簡単操作！

『SOBA CITY (<http://city.soba-project.com/>)』からユーザ登録し、SOBA CITY クライアントをインストール (ダウンロード) 後、「SOBA CITY 専用ホームページ」にアクセスし、ログインするとすぐにご利用が可能な状態になります。

万全なセキュリティ

『SOBA CITY』でやり取りするデータはすべて SSL により暗号化され、保護されています。そのため、利用者の方々の大切な情報やデータが危険におかされることなく、安心して利用いただけます。また、一方で共有空間へ参加するメンバーに許可を与える仕組みになっているので、共有空間内では万全のセキュリティといえます。

【動作環境】 () カッコ内は推奨環境です。

OS : Windows® 2000/XP (Windows® XP)

ブラウザ : Internet Explorer Ver6.0 以上

CPU : Celeron 700MHz 以上 (Pentium4 : 1.4GHz 以上)

メモリ : 256MB 以上 (512MB 以上)

HDD 容量 : 12MB 異常 (100MB 以上)

ネットワーク環境 : ADSL 環境、光回線接続環境 (10Mbps 以上)

ADSL など帯域が非対称の場合は狭い帯域 (上りの帯域) のご利用となります。

周辺機器 : PC カメラ (USB) ・ スピーカーとマイク (ノイズキャンセラ付またはエコーキャンセラ付、もしくはヘッドセットが推奨です)

SOBA フレームワークに裏付けられる確かな技術

『SOBA CITY』には、京都大学を中心とした産官学協同プロジェクト「SOBA プロジェクト」の研究成果である「SOBA フレームワーク」の技術が使われています。「SOBA フレームワーク」の技術を利用すると、ユーザがネットワーク上に情報の共有空間をつくり、映像・画像・テキスト・Windows®のアプリケーションなどを共有できます。SOBA フレームワークは、すでに様々な分野で実験・検証が行われていますが(例：遠隔対面販売用端末、遠隔医療現場、教育、監視システムなど)、多くの方々のコミュニケーションの場で役立つよう、日々新技術の開発に力を注いでいます。

参照 HP : http://www.soba-project.com/soba/soba_technology.html

尚、この技術開発の一部には、2005年度(平成17年度)独立行政法人情報通信研究機構 民間基盤技術促進制度による委託業務の研究成果が活用されています。

株式会社 SOBA プロジェクト について

株式会社 SOBA プロジェクトは、京都発祥の産官学協同から生まれた新しいビジュアル・コミュニケーションを推進する企業です。当社の前身となったこのプロジェクト事業は、新たなネットワーク社会の到来を予見し、次世代のネットワーク環境を有効に活用する新たなソフトウェア基盤技術を確立するため、2001年に産学協同体制で発足。さらに2002年度には文部科学省による支援を得て、2004年度までの3年間にわたって産学官協同による体制のもと、ソフトウェア基盤技術の研究開発を推進してきました。

2005年3月までは財団法人京都高度技術研究所を母体に、京都大学を中心とした研究グループ(京都大学、東京工業大学、早稲田大学、慶應義塾大学も参加)と企業の研究機関であるNTTコムウェア株式会社およびオムロン株式会社で構成した研究開発共同体で研究開発を推進。SOBAプロジェクトに属する精鋭の研究者と技術者の英知を結集し、SOBAの概念とSOBAテクノロジーを確立しました。

そして、2005年1月27日、SOBAの概念・思想を継承し、開発に携わったメンバーを中心に“株式会社 SOBA プロジェクト”を発足。SOBAの基盤技術の開発と普及に取り組むとともに、SOBAテクノロジーを活用した商品や情報サービスの提供を行っています。

株式会社 SOBA プロジェクト 会社概要 (2006年3月30日現在)

会 社 名 : 株式会社 SOBA プロジェクト
英 文 社 名 : SOBA Project, Inc.
本 社 所 在 地 : 京都市下京区中堂寺南町 134 番地
京都リサーチパーク 2 号館 2 階 1 号室(〒600-8813)
代表取締役社長 : 緒方 敏博
資 本 金 : 6,850 万円
設 立 : 2005 年 1 月 27 日
U R L : <http://www.soba-project.com>

..... 以 上

【報道関係各社さまからの本リリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 SOBA プロジェクト 広報担当 山崎 憲子
yamazaki@soba-project.com
TEL : 03-3518-2735 携帯電話 : 090-2354-8225

【企業各社さまからの SOBA 案件に関するお問い合わせ先】

株式会社 SOBA プロジェクト 取締役副社長 乾 和志
inui@soba-project.com
TEL (代表) : 075-323-6066 FAX : 075-323-6067